



中山間地域における多様な事業を導入した地域振興

はちぶせ

なかつがわし

八布施活動組織（岐阜県中津川市）

- 当地区は、岐阜県東部に位置し、周囲は標高700～1,200mの山地が広がる自然豊かな地域である。
- 農業者の高齢化や減少により、地域営農の維持が危ぶまれる中、農事組合法人「はちたか」を設立し、草刈りなどの農地維持活動について、集落全員参加型の共同活動を実施している。その結果、集落行事にもほぼ全員が参加するなど、地域の絆が保たれている。
- イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加しており、地域ぐるみで電気柵等の設置と日常管理を実施するとともに狩猟免許を取得し、イノシシを捕獲する取組も行っている。

【地区概要】

- ・取組面積 28ha（田28ha）
- ・資源量 開水路20.0km、農道6.0km
- ・主な構成員
農業者、農事組合法人、自治会、女性会、子供会等
- ・交付金 約2.3百万円（H29）

（ 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） ）

活動開始前の状況や課題

- 当地区は、中山間地域に位置しており、過去においては、水田に引く水をめぐって水喧嘩が絶えなかった。
- 農業者の高齢化や人口減少に伴い、集落の全戸が参加する農事組合法人「はちたか」を設置。
- 水田や用水路などの地域資源の保全はもちろん、老朽水路のパイプライン化や基盤整備未実施ほ場の整備が課題。
- 獣害被害も増加しており、既設の電気柵の日常管理に苦慮。



（農）はちたか設立



電気柵設置と保守

取組内容

- 地域農業を維持するため、様々な事業に取り組む。
 - ・多面的機能支払交付金
草刈り等の農地維持活動や施設補修
 - ・中山間地域等直接支払交付金
湿田圃場の改良工事。障害木や竹の除伐
 - ・県営経営体育成基盤整備事業
用水路のパイプライン化や基盤整備
 - ・水田法面畦畔管理安全省力化推進事業
傾斜地対応型自走式法面草刈機の導入
- 地域ぐるみで電気柵の設置と日常管理を行うとともに、狩猟免許取得者（4名）によるイノシシの捕獲を実施。シカ対策として、高さ1.8mのワイヤメッシュの設置も実施。
- 子供会の活動として、生きもの調査を実施し、地域の自然を学習する場を提供。



ワイヤメッシュ設置



生きもの調査

取組の効果

- 地域の共同活動が浸透したことにより、農地の利用集積が進行。（農事組合法人に約8割を集約）
- 野菜（ブロッコリー）栽培による女性の農業への参画を推進。
- 鳥獣害対策の研修や講習など積極的に参加することで被害を少しでも減らそうと努力した結果、以前より減少。
- 捕獲したイノシシを業者に解体してもらい集落行事の際、焼肉や鍋にして楽しむことで、地域コミュニティが活性化。
- 大学生との交流を開始。（H29年度は明治大学（4名）が来訪し、草刈り等を実施）



ブロッコリーの手入れ



集落行事の風景



ため池を中心とした非農家との共同活動

おくいけ

おおぶし

奥池地域保全隊（愛知県大府市）

- 大府市は、名古屋市に隣接しており、たまねぎ、キャベツなどの野菜、ぶどう、梨などの果物、畜産を中心とした都市近郊型農業が営まれている。
- 本地区においては、住宅団地の造成等に伴い非農業者が増加傾向にあり、農業者と非農業者とが連携した地域資源や農村環境の保全活動の実施体制の構築が課題であった。
- このような中、地区内のため池に親水公園が整備されたことを契機として、活動組織を立ち上げ、地域共同による地域資源や農村環境の保全活動を開始した。

【地区概要】

- ・取組面積 45ha（田14ha、畑31ha）
- ・資源量
開水路9.0km、パイプライン7.4km
農道9.9km、ため池1箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、土地改良区、まちづくり協議会、老人会
- ・交付金 約2百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

地域の状況



ため池（奥池）

- 名古屋市の隣接地域であり、都市住民の流入が増加している状況。
- 地域の環境保全を図るため、農業者と非農業者が連携した保全管理体制の構築が課題。
- 水環境整備事業によりため池の親水公園が整備され、これを契機として地域共同による地域資源の保全活動を開始。

主な取組内容



ため池周辺の草刈り



ため池の生き物調査

- 農業者のほか、活動組織の設立以前から地域の環境保全等の活動を行っていた「まちづくり協議会」、自治会等を構成員として活動組織を設立。
- 農業者と非農業者では活動に参加できる時間が異なるため、地域全体の活動を行う際には調整が必要となるものの、ため池周辺の草刈りといった基礎的保全管理活動のみならず、ため池周辺における植栽や生き物調査等の農村環境保全活動のほか、地域内の農家、非農家および都市住民との間の交流活動を活発に行っている。



水田魚道の設置を通じた活動の展開

えのきまえ あんじょうし
榎前環境保全会（愛知県安城市）

- 本組織は、平成19年度から農地・水保全管理支払に取り組んでおり、近年の環境配慮に係る意識の高まりなどを受けて、愛知県農業総合試験場等との連携のもと、地区内の水田に水田魚道及びカエルの脱出装置を設置。
- 水田魚道と魚道を設置した観察水田において、生物の観察や伝統的農機具を用いた農作業体験など、子どもが農業や環境の大切さを再認識し、地域や農業への理解を深める活動を実施。
- また、地元の保育園・子供会等との連携のもと地域資源の保全活動を実施しており、景観保全のために植栽したヒマワリを活用したイベント等を開催。更に、地元農協は、水田魚道を設置した水田で栽培した減農薬米を「どじょうの育み米」として販売。

【地区概要】

- ・取組面積 69ha（田65ha、畑4ha）
- ・資源量
開水路 13.0km、パイプライン14.6km、
農道 8.5km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、町内会、
榎前農用地利用改善組合 等
- ・交付金 約5百万円（H29）
農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

研究機関との連携による 水田魚道等の設置



- 水田の生物多様性を確保するため、構成員、耕作者等の関係者が話し合い、水田と排水路を結ぶ水田魚道を設置
- 水田魚道は、愛知県農業総合試験場において開発されたものであり、保全会では、遡上する魚類等の観察・調査を週2回程度の頻度で定期的実施
- 生態系の保全に欠かすことの出来ないカエルを保護するため、カエルの脱出装置を水路に設置

水田魚道を活かした活動



- 水田魚道での生き物調査を実施する事で環境に対する意識を醸成



- 魚道を設置した水田を観察水田としても活用

- 観察水田で伝統的農機具を用いた農業体験を実施



更なる活動の展開



- 水田魚道を設置した水田で節減対象農薬を地域慣行の5割低減して栽培した米を「どじょうの育み米」として販売

- また、地元製パン工場とも連携し、米粉パンとしても販売



- 多様な主体による取組
(中学生によるゴミ拾い)



- ヒマワリの植栽
(活動組織が主体となってヒマワリ祭りも開催)



環境保全活動を通じて地域企業と交流

ひがしざかい かりやし
東境地域資源保全隊（愛知県刈谷市）

- 本地域は、大型郊外店の進出等急速に都市化が発展しており、非農家の割合が9割を超える都市近郊の農業地域。県営経営体育成基盤整備事業（平成16～21年度）を契機に維持管理体制の再構築を含めた組織づくりを図り、集落営農を核とした地域農業の継続的な発展を地域一体となって目指している。
- 平成29年8月に地域企業トヨタ車体㈱が主催し、外来種駆除活動や対策を行う人材の育成と、水辺の生き物に関する環境学習を目的としたミシシippアカミガメ駆除を開催。愛知県生態系ネットワーク協議会、小中学生、地域住民、研究者、環境省、刈谷市、当保全隊の産・官・学・民が一体となり実施。
- 地域企業デンソーと共催で清掃活動を実施。（デンソーハートフルデー、DECOウォーク刈谷）
- 平成19年度からクリーン大作戦を展開し、地域の約30の各ボランティア団体、企業、小中学校が参加。地域に根付いた活動となり、年々参加者は増加。ポイ捨てが目に見えて減っている。

【地区概要】

- ・取組面積 63 ha（田 63 ha）
- ・資源量
開水路 13.0 km、パイプライン 13.3 km
農道 11.2 km、ため池 6カ所
- ・主な構成員
農業者、自治会、同志会、
土地改良東境管理区
- ・交付金 約4百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

土地改良管理区が中心と なって維持管理体制の構築



年間活動計画作成



水路の泥上げ



ため池周辺の草刈り

産・官・学・民が一体となった 環境保全活動の取組

アカミガメの駆除 （生態系保全・水辺環境学習）



事前打合の状況



罠の設置状況



カメの捕獲状況



捕獲されたアカミガメ

捕獲したカメ

アカミガメ 54頭
ニホンイシガメ 1頭
ニホンスッポン 1頭

クリーン大作戦に 約30団体660名が参加



中学生分別作業



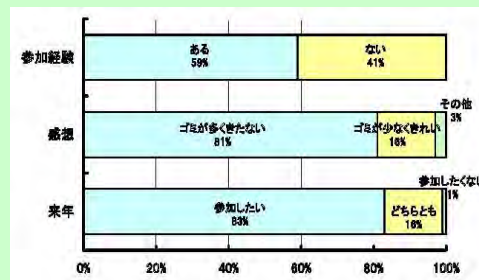
クリーン作業状況



アンケート調査



団体参加状況



アンケートでは、約6割の方が参加経験あり、約8割の方が次回も参加したいと回答。